

令和8年度スポーツ・インテグリティ推進事業
「中央競技団体間の連携・統合に向けた環境整備」

仕 様 書

令和8年2月25日
スポーツ庁競技スポーツ課

1. 事業名

令和8年度スポーツ・インテグリティ推進事業「中央競技団体間の連携・統合に向けた環境整備」

2. 事業の趣旨及び経緯

令和4年8月に文部科学省がとりまとめた「障害者スポーツ振興方策に関する検討チーム報告書（高橋プラン）」^{※1}においては、共生社会の実現に向け、健常者と障害者のスポーツを可能な限り一体のものと捉え、競技活動の充実や持続可能な団体運営を図っていく観点から、競技の共通性や親和性の高い団体間の統合も視野に入れた連携の促進に取り組む必要があるとされている。

令和5年度に行った中央競技団体（以下「NF」という。）を対象とした調査においては、29団体が他団体との連携を、17団体が他団体との統合を検討していることが明らかになっており、これらの団体の連携・統合が円滑に進むよう更なる後押しをしていく必要がある。

※1：障害者スポーツ振興方策に関する検討チーム報告書（高橋プラン）については、次のスポーツ庁ウェブサイトを参照すること。

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop06/list/detail/1379526_00003.htm

3. 事業の内容

（1）中央競技団体間の連携・統合に関する研修会の実施

NFが持続可能な組織運営を実現する上で、団体間の連携や統合は業務の効率化や効果の最大化に向けた手段の一つとして有効であると考えられる。一方、上記調査では、のべ46団体が団体間の連携・統合を検討しているという回答がなされたものの、その後具体的な検討に至った事例は多くあらず、実現におけるハードルの高さが課題である。

そのため本事業においては、団体間の連携・統合における検討プロセスや効果の共有を図ることにより、NFの意識醸成に向けた研修会を実施する。

研修会の実施にあたっては、事前アンケート及び事後アンケートを実施することにより、参加団体が抱える課題や興味関心、他団体との検討状況等を把握し、各回のテーマ設定への反映や本施策の方向性検討を行うこと。なお、研修会テーマについては、令和5年度～令和7年度に実施した本事業の成果や国内外における事例等を取り入れることとする。

また研修会の実施形態については、講義形式だけでなく、他団体との連携が模擬的に体験できるようなワークショップ形式も検討すること。

研修会を計画する際には、次の実施規模（想定）を参考にすること。なお、NFの組織規模を考慮し、研修内容が実態と乖離し実現可能性が低いものにならないよう配慮すること。

【実施規模（想定）】

開催回数：3回程度（スポーツ庁と協議の上、決定すること）

開催方法：対面もしくはオンライン（ハイブリッド開催も可）

なお、団体間の情報共有や横連携が促進されるような機会を確保すること。

参加人数：30名程度

(2) 相談窓口の設置及び個別相談への対応

他団体との連携や統合を検討しているNFが相談できる窓口を設置する。なお、基本的にはメールベースでの個別相談を受け付けることを想定しているが、研修会において直接相談を受け付けることが可能な体制を整備すること。

個別相談については、検討過程における課題の整理や国内外における他事例を踏まえた知見の提供等、相談者が求める情報提供や助言を想定しているが、対応可否の判断が難しい場合はスポーツ庁と相談すること。

また、令和5年度に本事業で実施した実態調査において団体間の連携・統合を検討していると回答した団体に対し、現在の検討状況について確認を行うとともに、連携・統合の相手方となる団体の選定や具体的な取組の内容について検討がされているなど、将来的な具体化の可能性のある団体については、情報提供や助言等必要な支援を提供すること。

個別相談の対応状況については、適宜スポーツ庁に対し報告を行うこと。

4. 委託契約期間

委託契約日 ～ 令和9年3月19日（金）

5. 成果物

本事業における成果物は以下のとおりとし、電子ファイル形式で授受することとする。

- ・ 成果報告書
- ・ 研修会投影資料
- ・ 研修会撮影動画

6. 納入期限

令和9年3月19日（金）

7. 納入先

東京都千代田区霞が関3-2-2
スポーツ庁競技スポーツ課競技団体組織基盤強化係
TEL：03-6734-3574 内線3574
E-mail：kyosport@mext.go.jp

8. 事業規模

事業規模は10,000千円（税込）を上限とする。

9. 応札者に求める要求要件

(1) 要求要件の概要

- ① 本委託事業に係る応札者に求める要求要件は、「(2) 要求要件の

詳細」に示すとおりである。

- ② 要求要件は必須の要求要件と必須以外の要求要件がある。
- ③ 「*」の付してある項目は必須の要求要件であり、最低限の要求要件を示しており、技術審査においてこれを満たしていないと判断がなされた場合は不合格として落札決定の対象から除外される。
- ④ 必須以外の要求要件は、満たしていれば望ましい要求要件であるが、満たしていなくても不合格とならない。
- ⑤ これらの要求要件を満たしているか否かの判断及びその他提案内容の評価等は、「スポーツ・インテグリティ推進事業審査委員会」において行う。なお、総合評価落札方式に係る評価基準は別添の「令和8年度スポーツ・インテグリティ推進事業におけるスポーツ団体がバナンスコードの実効化に向けた支援 総合評価基準」に基づくものとする。

(2) 要求要件の詳細

1 業務の実施方針

1-1 内容の妥当性、独創性

- * 1-1-1 提案内容が仕様書記載の本事業の趣旨・目的に合致していること。
- * 1-1-2 仕様書の記載の内容について全て提案されていること。〔仕様書に示した内容以外の独自の提案がされていればその内容に応じて加点する。〕

1-2 事業実施方法の妥当性、独創性

- * 1-2-1 事業実施の方法が妥当で具体的かつ明確であること。〔その方法に事業成果を高めるための工夫があればその内容に応じて加点する。〕
- * 1-2-2 研修会において、中央競技団体間の横連携を推進するワークショップ等の手法が明確に示されており、妥当であること。

1-3 作業計画の妥当性、効率性

- * 1-3-1 作業の日程・手順等に無理がなく目的に沿った実現性があること。〔作業の日程・手順等が効率的であれば加点する。〕

2 組織の経験・能力

2-1 組織の類似業務の経験

- 2-1-1 過去に競技団体間の連携・統合に係る業務を実施した実績やスポーツ団体向けの研修会又は類似の業務を実施した実績があれば加点する。〔類似業務の実績内容により加点する。〕

2-2 組織の業務実施能力

- * 2-2-1 事業を遂行する人員が確保されていること。
- 2-2-2 幅広い知見・人的ネットワーク・優れた情報収集能力を有していれば加点する。
- * 2-2-3 事業を実施する上で適切な財政基盤、経理能力を有し

ていること。

2-3 業務に当たったのバックアップ体制

2-3-1 円滑な事業遂行のための人員補助体制が組み立てられていれば加点する。

3 ワーク・ライフ・バランス等の推進に関する指標

3-1 ワーク・ライフ・バランス等の取組

3-1-1 以下のいずれかの認定等又は内閣府男女共同参画局長の認定等相当確認を受けていれば加点する。

- 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）に基づく認定（えるぼし認定企業・プラチナえるぼし認定企業）又は女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画（令和7年4月1日以降の基準）策定済（常時雇用する労働者の数が100人以下のものに限る）
- 次世代育成支援対策推進法（次世代法）に基づく認定（くるみん認定企業・トライくるみん認定企業・プラチナくるみん認定企業）又は次世代法に基づく一般事業主行動計画（令和7年4月1日以降の基準）策定（常時雇用する労働者の数が100人以下のものに限る）
- 青少年の雇用の促進等に関する法律（若者雇用促進法）に基づく認定
- スポーツ庁「Sport in Life プロジェクト」によるスポーツエールカンパニーの認定を受けていること。

4 賃上げを実施する企業に関する指標

4-1 賃上げの表明

以下のいずれかを表明していれば加点する（いずれかを応募者が選択するものとする）。

4-1-1 令和4年4月以降に開始する入札者の事業年度において、対前年度比で「給与等受給者一人当たりの平均受給額」を大企業においては3%以上、中小企業等においては1.5%以上増加させる旨を従業員に表明していること。

4-1-2 令和4年以降の暦年において、対前年比で「給与等受給者一人当たりの平均受給額」を大企業においては3%以上、中小企業等においては1.5%以上増加させる旨を従業員に表明していること。

※1 中小企業等においては、「給与総額」とする。

※2 中小企業とは、法人税法（昭和40年法律第34号）第66条第2項、第3項及び第6項に規定される、資本金等の額等が1億円以下であるもの又は資本等を有しない普通法人等をいう。

10. 検査

受注者による委託業務完了（廃止）報告の内容が、契約の内容及びこれに付した条件に適合するものであるかは、発注者が確認することをもつ

て検査とする。

1 1. 守秘義務

受注者は、本業務の実施で知り得た非公開の情報を第三者に漏洩してはならない。

受注者は、本業務に係わる情報を他の情報と明確に区別して、善良な管理者の注意義務をもって管理し、本業務以外に使用しないこと。

1 2. 届出義務

受注者は、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく認定など技術提案書に記載した事項について、認定の取消などによって記載した内容と異なる状況となった場合には、速やかに発注者へ届け出ること。

1 3. 賃上げを実施する企業に関する指標に係る留意事項

発注者は、受注者が賃上げを実施する企業に関する指標における加点を受けた場合、受注者の事業年度等（事業年度及び暦年をいう。）が終了した後、表明した率の賃上げを実施したことを以下の手法で確認する。

・4-1-1 の場合は、賃上げを表明した年度及びその前年度の法人事業概況説明書の「10 主要科目」のうち「労務費」、「役員報酬」及び「従業員給料」の合計額を「4 期末従業員等の状況」のうち「計」で除した金額を比較する。

・4-1-2 の場合は、給与所得の源泉徴収票等の法定調書合計表の「1 給与所得の源泉徴収票 合計表(375)」の「A 俸給、給与、賞与等の総額」の「支払金額」欄を「人員」で除した金額により比較する。

※ 中小企業等にあつては、上記の比較をすべき金額は、4-1-1 の場合は「合計額」と、4-1-2 の場合は「支払金額」とする。

加点を受けた受注者は、確認のため必要な書類を速やかに発注者に提出すること。ただし、前述の書類により賃上げ実績が確認できない場合であっても、税理士又は公認会計士等の第三者により上記基準と同等の賃上げ実績を確認することができる書類であると認められる書類等をもって代えることができる。

上記の確認を行った結果、加点を受けた受注者が表明書に記載した賃上げ基準に達していない場合又は本制度の趣旨を意図的に逸脱している場合においては、当該事実判明後の総合評価落札方式において所定の点数を減点するものとする。詳細は従業員への賃金引上げ計画の表明書裏面の（留意事項）を確認すること。

なお、確認に当たって所定の書類を提出しない場合も、賃上げ基準に達していない者と同様の措置を行う。

1 4. 子会社、関連企業に対する利益控除等透明性の確保

再委託先が子会社や関連企業の場合、利益控除等透明性を確保すること。また、再委託費以外のすべての費目においても、受託者の子会社や関連企業への支出に該当する経費については、再委託費と同様の措置を行

うか、取引業者選定方法において競争性を確保することで、価格の妥当性を明らかにすること。

15. 取引停止期間中の者への支出の禁止

再委託先や事業費による支出先に取引停止期間中の者を含めないこと。

16. その他

(1) 本業務の実施に当たっては、業務の進捗状況等を把握するため、必要に応じ報告を求めることがあるので、スポーツ庁からの求めに応じ、メール、電話等により報告すること。

(2) この仕様書に記載されていない事項、または本仕様書について疑義が生じた場合は、スポーツ庁と適宜協議を行うものとする。